



開所日時 月・水・木・金曜日
15 時～18 時
土曜日 10 時～13 時

児童デイ 新しい遊具

まごころ広場の向いにある九品寺公園は、子ども達の散歩コースの定番として、よく利用させていただいています。この公園の遊具が今月、改装工事を終えて新しくなりました。2カ月程に及んだ工事期間中は、公園に子ども達の気配がなく寂しいものでしたが、どこで聞きつけたのか、遊具完成と同時に地元の子も達が集まり、公園は再び活気に満ち溢れています。毎日元気に思い思いの遊び方を楽しむ子ども達の姿を見ていると、こちらにも元気をもらえます。

大人の目線から見ると・・・

しかし、この新しい遊具、木製の大型のものからプラスチック製の小型のものに変わったのですが、大人の目線から見るといろいろと不安がありました。プラスチックのすべり台は静電気がバチバチこないかとか、狭くなって遊ぶ人数が限られるんじゃないか・・・など。

子どもの目線では

そんな不安はまごころの子ども達が目の前で遊ぶ姿を見てすぐに解消しました。静電気なんて全く気にせず、狭くても工夫しながら楽しむ、そして遊具の中に隠されている「電話機能」をすぐに発見し、遊びの中に取り入れる等、大人が気付かなかった発見やアイデアの中で楽しく遊ぶことができ、なんだかとても頼もしく思えました。

これからもこの公園で、子ども達の成長を見守ってゆけたらと思います。



新しい遊具。カラフルな動物が配置され、すべり台には「ひねり」が加わりました。

～研修報告～

メンタルヘルスケア

「コラージュ療法」

▼日々時間に追われ、多くのストレスを感じて介護現場で悪戦苦闘する毎日、自分だけの「癒し」の時間として体験する方法を学んだ。

背筋を伸ばし、心を「無」にして目を綴じ、大きく鼻から息を吸い、口から吐き出す。これを数回繰り返す、気分がリラックスしたところで、無心に沢山の雑誌やチラシの中から自由に切って、のりで台紙に貼り付ける。手でちぎろうが、ハサミで切ろうが全て自由に、自分の心の中を表現していく。

▼Collage。フランス語で「糊で貼り付ける」という意味で、美術の一技法として、また近年は精神疾患の治療に用いられている。コラージュは絵の上手下手にかかわらず、すでに出来上がった物から選ぶことができるため、誰でも取り組めそうでした。

▼はじめは、どうしようか、何をテーマに作ろうかなどと人のやっているのを見てあせりも感じましたが、雑誌をパラパラめくっているうちに目に留まったものから切り出し、後は無我夢中になって、紙をちぎっては貼る作業に没頭していました。完成後、それぞれ満足感やら思い思いの作品に感心したりして、不思議な「癒し」の時間を体験できました。



思い思いの表現に満足の出来ばえ？！

ミニデイだよ

桜



3月30日、晴天。前日の凍えるような寒さとはうってかわって穏やかなお花見日和。今年は市のバスに乗って名城公園へお花見に出掛けました。

とても気持ちの良い日となり、利用者さんたちは、普段のミニデイの散歩からは想像ができないほどの長い距離を、桜や花々を見ながらのんびりと歩かれました。



Iさんは園内の池の向こう側に見える名古屋城と桜の風景をご覧になりながら「来週のデイで、この風景を絵に描きたい！」と写真撮影をリクエストされ、来週のデイの活動を決めて下さりもしました。

帰りは運転手さんのご配慮もあり、遠回りになりましたが木曾川沿いの一宮タワー近くにも立ち寄ることができました。

名古屋では七分咲きだった桜ですが、こちらでは満開の桜も見られました。目線の高いバスの中から見る桜のトンネルは、花がいつもよりずっと近くに見えまた格別！トンネルに入ると「わあ～！！」と歓声が上がリ、拍手が起きました。

普段のデイとは違い、遠出をしてお疲れになったとは思いますが、皆さんの明るい笑顔をたくさん拝見することができ、嬉しく思います。



心づれづれ

まごころ

丸一 美月

私にはダウン症の妹がいます。現在、小学4年生です。身長は120cm、体重は28kg。ちょっとポッチャリしています。言葉は、まだしっかりと話せません。でも一緒に暮らしていると、大体何を考えているか、何をしたいのか気持ちはとても通じ合えます。それと、運動もでき、本当に元気よく走り回っています。

今日でも、いつも先に家を出る兄が寝ていたら「これは大変だ、学校に遅刻する！急がないと。」と言葉は話せないのに言葉にならない声で「オーイ」と母の作った兄のお弁当箱を持って二階に寝ている兄を起こしにいきます。

このように障がいをもっていても私たちの暮らしと変わりはないのです。しかし、世間では「障がい者のいる家庭って大変ね。」という言葉をよく耳にします。その言葉の裏には障がい者がいるから大変な目に合っている、家に障がい者がいなくてよかった、そんなメッセージが隠されていると思います。それが障がい者との壁を作っている原因ではないのでしょうか。

そんな心の壁を取り除くには、私と違うという理由で否定をするのではなく、障がいを「個性」という観点から他人を認め、受け入れることが大切だと私は思います。ですから、障がい者として特別な配慮が必要であっても、人間対人間の付き合い方として「特別」な存在ではなく心をお互いに開けば、たとえ障がい者であっても心と心が繋がることできると思います。私にとって普通とは、一人ひとりの人間が勝手に作りだしているものだと思います。初めて障がい者に会った時は驚き、戸惑ってしまうかもしれない、だけど心を開いて人間対人間で話しかけてみて下さい。必ず謎が解き明かされて自然と距離が縮まり、誰もが私たちと変わらないと感じて特別な存在ではなくなるのではないのでしょうか？

「障がいは不便だけど、不幸ではない。」

これはヘレン・ケラーが残した言葉。障がい者だけでなく、誰もがお互いに認め合えるような世の中になることを願っています。

